SAY Technologies

LicenseManager リリースメモ

Job Director R17

■Windows, Windows Server, Microsoft Azure, Microsoft Excel, Internet Explorer および Microsoft Edge は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

■UNIX は、The Open Group が独占的にライセンスしている米国ならびにほかの国における登録商標です。

■HP-UX は、米国 HP Hewlett Packard Group LLC の商標です。

■AIX は、米国 IBM Corporation の商標です。

■Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

■Oracle Linux, Oracle Clusterware および Java は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。

■Red Hat は、Red Hat,Inc. の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

■SUSE は、SUSE LLC の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

■NQS は、NASA Ames Research Center のために Sterling Software 社が開発した Network Queuing System です。

■SAP ERP, SAP NetWeaver BW および ABAP は、SAP AG の登録商標または商標です。

■Amazon Web Services およびその他の AWS 商標は、Amazon.com, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の国における商標です。

■iPad, iPadOS および Safari は、米国およびその他の国で登録された Apple Inc. の商標です。

■iOS は、Apple Inc. のOS名称です。IOS は、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。

■Docker は、米国およびその他の国で登録された Docker, Inc. の登録商標または商標です。

■その他、本書に記載されているソフトウエア製品およびハードウエア製品の名称は、関係各社の登録商標または商標です。

なお、本書内では、R、TM、cの記号は省略しています。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウエア)は、外国為替令に定める提供を規制される技術に該当いたしますので、日本国外へ持ち出す際には日本国政府の役務取引許可申請等必要な手続きをお取りください。許可手続き等にあたり特別な資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業拠点にご相談ください。

はじめに

本書は、『LicenseManager』の機能の概要等について説明しています。

本書の内容は将来、予告なしに変更する場合があります。あらかじめご了承下さい。

1. Job Director R17.1における制限事項

Job Director R17.1と各マニュアルにおける制限事項を以下にまとめました。各マニュアルにおいて以下の制限事項・非対応機能に該当する記述が存在した場合、本項の内容を優先してください。

■マニュアル内のバージョン表記について

- 本製品以前に一般販売されたJob Directorは以下のバージョンのみです。本製品(R17.1)、および下記のバージョン以外は提供しておりません。マニュアル内における製品バージョンを限定した記載については、指定されたバージョンの範囲にこれらのバージョンが含まれている場合のみが該当します。
  - Job Director R12.10
  - Job Director R13.2
  - Job Director R15.1
  - Job Director R16.1
- Job Directorは以下のバージョンがクラスタに対応しております。マニュアル内における製品バージョンを限定した記載については、指定されたバージョンの範囲にこれらのバージョンが含まれている場合のみが該当します。
  - Job Director R15.1
  - Job Director R16.1
  - Job Director R17.1
- Job Director MG/SVのバージョンと、Job Director JD Assistの動作モードの対応は以下のとおりです。

動作モード	対応Job Director MG/SVバージョン
Definition 3.0	Job Director MG/SV R12.10
Definition 5.0	Job Director MG/SV R13.2
Definition 7.0	Job Director MG/SV R15.1
Definition 9.0	Job Director MG/SV R16.1
Definition 10.0	Job Director MG/SV R17.1

■Job Director R17.1の機能制限について

- 1つのJob Director MG/SVに登録できるジョブネットワーク数は、最大で50件です。
- ジョブネットワーク1件について、配置できる単位ジョブの上限は50個までです。
- 複数のJob Director MGを使用してジョブを管理することはできません。
- 対応言語は日本語のみです。英語、中国語には対応しておりません。
- Job Director R17.1が対応する動作モードはクラシックモードのみです。スタンダードモードには対応しておりません。
- クラスタソフトウェアはCLUSTERPRO、およびWindows Server Failover Cluster(WSFC)に対応します。

  HP Serviceguard、およびIBM PowerHA、Oracle Clusterwareには対応しておりません。
- マシングループ機能、NQSフレームボタン、およびNQSフレーム画面は使用できません。

> NQSフレーム画面に含まれる「キュー一覧」および「リクエスト一覧」は、マネージャフレームの「マシン一覧」から対象のマシンを選択して開くことで表示できます。

- UNIX OS(HP-UX、AIX、Solaris)には対応しておりません。
- IPF(Itanium Processor Family、IA-64)には対応しておりません。
- SAPの各サービスとの連携機能には対応しておりません。
- WebOTX Batch Server(WOBS)との連携機能には対応しておりません。
- iOS、iPadOS、Safariには対応しておりません。
- コンテナ環境での動作は対応しておりません。
- ACOSとの連携、およびACOS監視機能には対応しておりません。
- SUPER-UX、およびSUPER-UX NQSとの連携には対応しておりません。
- WebSAM SystemManager Gとの連携機能には対応しておりません。
- Micro Focus Operations Manager software、およびOPCMSG連携機能には対応しておりません。
- UCX Singleジョブ機能には対応しておりません。

■マニュアルで使用される画像について

- マニュアル中で使用されている画面画像について、実際の画面と異なる場合は、実際の画面表示を正として読み替えてください。

2. 改版履歴

版数	変更日付	項目	形式	変更内容
1	2025/11/20	新規作成	ー	第1版

目次

はじめに iv
1. Job Director R17.1における制限事項 v
2. 改版履歴 vii
1. LicenseManagerについて 1
2. 必要ディスク容量／メモリ容量 2
2.1. 使用パーティションおよび必要容量 3
2.2. 使用メモリ容量 4
3. Linux版のインストール方法について 5
3.1. ソフトウェアパッケージのインストール 6
3.2. LicenseManagerソフトウェアプロダクトの確認 7
3.3. LicenseManagerソフトウェアプロダクトのインストール 8
3.4. LicenseManagerの依存パッケージ一覧 9
4. Windows版のインストール方法について 10
4.1. ソフトウェアパッケージのインストール 11
4.2. 通常インストール 12
4.2.1. LicenseManagerソフトウェアプロダクトの確認 12
4.2.2. LicenseManagerソフトウェアプロダクトのインストール 12
4.3. サイレントインストール 15
4.3.1. LicenseManagerソフトウェアプロダクトのサイレントインストール 15
5. Linux版パッケージの削除手順 16
5.1. 依存関係にあるプロダクトの確認 17
5.2. 本パッケージの削除 18
6. Windows版パッケージの削除手順 19
6.1. 依存関係にあるプロダクトの確認 20
6.2. 本パッケージの削除 21

1. LicenseManagerについて

本プロダクトは、ライセンス管理用製品です。依存関係にあるプロダクトをインストールする前に、本プロダクトをあらかじめインストールしておく必要があります。

2. 必要ディスク容量／メモリ容量

2.1. 使用パーティションおよび必要容量

LicenseManagerのインストールでは、OSごとに以下のディスクが必要です。

OS	必要容量
Windows	2Mbyte
Linux	/opt 1Mbyte /etc 1Mbyte

2.2. 使用メモリ容量

LicenseManagerの各機能の動作には、下記のメモリ容量が必要です。

OS	メモリ使用量
Windows	3Mbyte
Linux	2Mbyte

3. Linux版のインストール方法について

3.1. ソフトウェアパッケージのインストール

インストールには、以下に示す手続きがあります。

■LicenseManagerソフトウェアプロダクトの確認

■LicenseManagerソフトウェアプロダクトのインストール

以下に、LicenseManagerソフトウェアプロダクトのインストール作業の具体的な手順を説明します。

3.2. LicenseManagerソフトウェアプロダクトの確認

インストールを行う前に、LicenseManagerがすでにインストールされていないかどうかを確認します。

> Red Hat Enterprise Linux 8を例に記載しています。dnfコマンドについては、インストールするOSのパッケージ管理コマンドに読み替えてください。

1. マシンを立ち上げ、ログイン名「root」でログインします。

```
login:root ↵
```

2. 次のコマンドを実行して、LicenseManagerがインストールされているか確認します。

```
root> /bin/dnf list installed LM ↵
```

3. 以下のようにパッケージが見つからない旨が表示された場合、引き続きLicenseManagerのインストールを行います。

```
Error: No matching Packages to list
```

4. 次のように表示された場合、表示されているメッセージから、LicenseManagerのバージョンを確認します。

```
LM.x86_64 X.XX-1
```

> XXには、LicenseManagerのバージョン番号が入ります。

■バージョンがR1.10以降の場合

バージョンがR1.10かつJob Director R17.1をご利用の場合は、LicenseManagerをバージョンアップしてください。

バージョンアップは、古いバージョンをアンインストールした後に新しいバージョンをインストールすることで行います。アンインストールの方法は5章　「Linux版パッケージの削除手順」　を参照してください。

■バージョンがR1.9以前の場合

LicenseManagerをバージョンアップしてください。

バージョンアップは、古いバージョンをアンインストールした後に新しいバージョンをインストールすることで行います。アンインストールの方法は5章　「Linux版パッケージの削除手順」　を参照してください。

3.3. LicenseManagerソフトウェアプロダクトのインストール

LicenseManagerは各プロダクトのインストールパッケージに同梱されています。次の手順に従ってインストールしてください。

各製品のインストールパッケージより、/tmp配下にLicenseManagerのインストールファイルをコピーしたと仮定します。ファイル名は、/tmp/LMとしたと仮定します。

> Red Hat Enterprise Linux 8を例に記載しています。dnfコマンドについては、インストールするOSのパッケージ管理コマンドに読み替えてください。

1. 次のコマンドによりインストールを実行します。

   実行後、依存関係に伴ってインストールされるパッケージ一覧が表示されますので問題なければyを選択してください。

   > 事前に依存パッケージをインストールしていない場合、この操作でまとめてインストールされます。

   rpmコマンドでインストールする場合は、事前に依存パッケージのインストールが必要になります。インストールが必要となる依存パッケージについては「3.4 LicenseManagerの依存パッケージ一覧」を参照してください。

   ■EM64Tの場合

   ```
   root> /bin/dnf install /tmp/LM ↵
   ```

   次のメッセージが表示されれば、インストールは正常に終了しています。

   ```
   Complete!
   ```

   dnfのエラーによりインストールが失敗した場合は、インストーラのログを参照し、Linuxの製品マニュアル等に従って対処してください。

2. 次のコマンドによりインストール結果を確認します。

   ```
   root> /bin/dnf list installed LM ↵
   ```

   次のように表示されればインストールは正常に終了しています。

   ```
   LM.x86_64 X.XX-1
   ```

   > XXには、LicenseManagerのバージョン番号が入ります。

3.4. LicenseManagerの依存パッケージ一覧

通常、パッケージ管理コマンドであるdnfやyumコマンドを利用してインストールを行った場合、下記のパッケージが併せてインストールされます。

Red Hat Enterprise Linux 7以降、Oracle Linux 7以降では、以下のパッケージに依存しています。

■bash.x86_64

■glibc.i686

■glibc.x86_64

SUSE Linux Enterprise Server 15以降では、以下のパッケージに依存しています。

■bash-sh.x86_64

■glibc.x86_64

4. Windows版のインストール方法について

4.1. ソフトウェアパッケージのインストール

インストールには、以下に示す手続きがあります。

■通常インストール

- LicenseManagerソフトウェアプロダクトの確認
- LicenseManagerソフトウェアプロダクトのインストール

■サイレントインストール

- LicenseManagerソフトウェアプロダクトのサイレントインストール

以下に、LicenseManagerソフトウェアプロダクトのインストール作業の具体的な手順を説明します。

4.2. 通常インストール

4.2.1. LicenseManagerソフトウェアプロダクトの確認

インストールを行う前に、LicenseManagerがすでにインストールされていないかどうかを確認します。

1. マシンを立ち上げ、Administrator権限のあるユーザでログインします。
2. コントロールパネルにある［プログラムと機能］画面を確認し、［LicenseManager］のエントリーがあるかどうかを確認します。
3. LicenseManagerが存在しなかった場合は、引き続きLicenseManagerのインストールを行います。
4. LicenseManagerがすでに存在していた場合はバージョンを確認します。

   ［プログラムと機能］画面の［表示(V)］メニューから［詳細表示の設定］を選択して［バージョン］にチェックを入れることで、バージョン情報が表示されます。

   バージョンが1.9以前の場合、またはバージョンが1.10かつJob Director R16.1以降をご利用の場合、LicenseManagerのバージョンアップをしてください。

   バージョンアップは、古いバージョンをアンインストールした後に新しいバージョンをインストールすることで行います。アンインストールの方法は6章「Windows版パッケージの削除手順」を参照してください。

4.2.2. LicenseManagerソフトウェアプロダクトのインストール

LicenseManagerは各プロダクトのインストールパッケージに同梱されています。次の手順に従ってインストールしてください。

1. 各製品のインストールパッケージから、LicenseManagerのインストールファイル（setup.exeおよびlmsetup-x64.msi）をローカルディスク上の任意の同一フォルダ内にコピーします。ここでは、C:\setup.exeおよびC:\lmsetup-x64.msiにコピーしたと仮定します。
2. コピーしたsetup.exeファイルを実行し、LicenseManagerのインストーラを起動します。
3. 次のような画面が表示されますので、［Next＞］ボタンをクリックします。

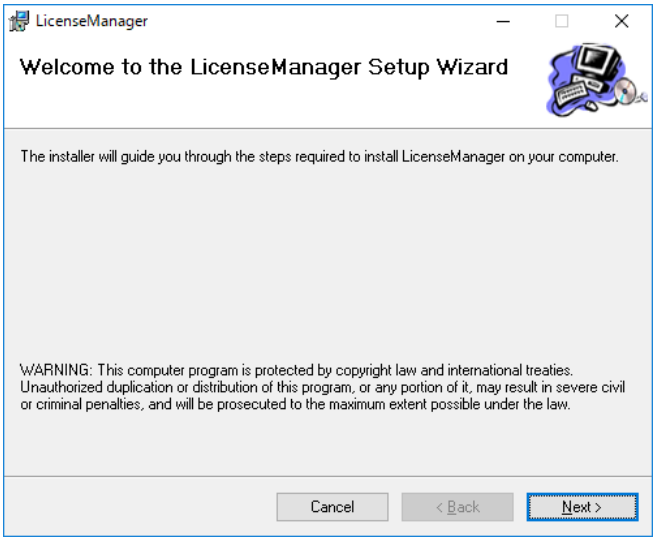

図4.1 インストール初期画面

4. 「Select Installation Folder」画面が表示されます。インストール先のフォルダを決定後、［Next＞］ボタンをクリックします。

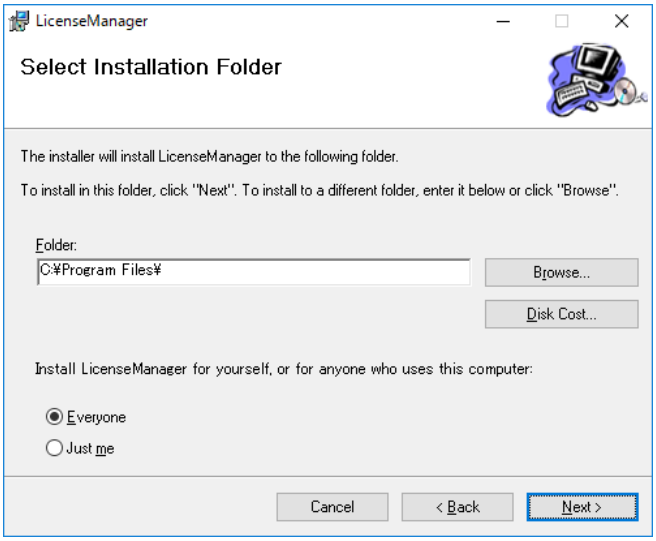

図4.2 インストール先設定画面

既定のインストール先フォルダを変更する場合には、［Browse…］ボタンをクリックして表示された画面の指示に従ってインストール先のフォル を選択して［OK］ボタンをクリックします。

5. 確認画面が表示されます。設定が完了したら［Next＞］ボタンをクリックします。

設定内容を変更する場合は、［＜Back］ボタンをクリックし各項目の画面まで戻って設定をやり直します。

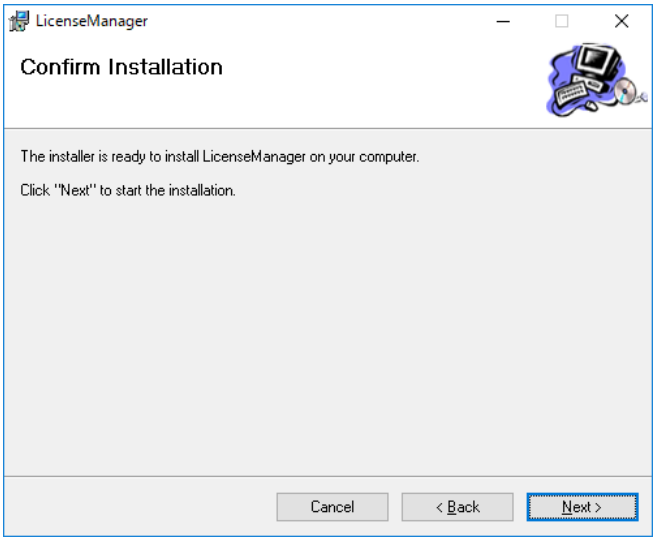

図4.3 確認画面

6. すべてのインストールが完了すると次の画面が表示されます。［Close］ボタンをクリックしてください。

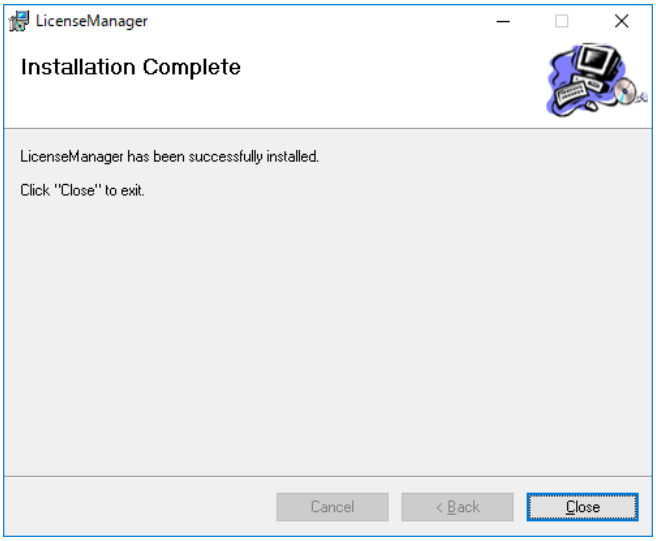

図4.4 完了画面

再起動を促すメッセージが表示された場合は、インストールプロダクト起動前に、必ずシステムを再起動してください。

ここまでで「LicenseManager」のインストール作業は完了です。

最後に、インストールが正常に終了したかを確認します。

7. Windowsの［スタート］－［コントロールパネル］で「プログラムの追加と削除」(または「プログラムと機能」)を実行します。

次の画面例のように「LicenseManager」のエントリーが表示されていれば正常に終了しています。

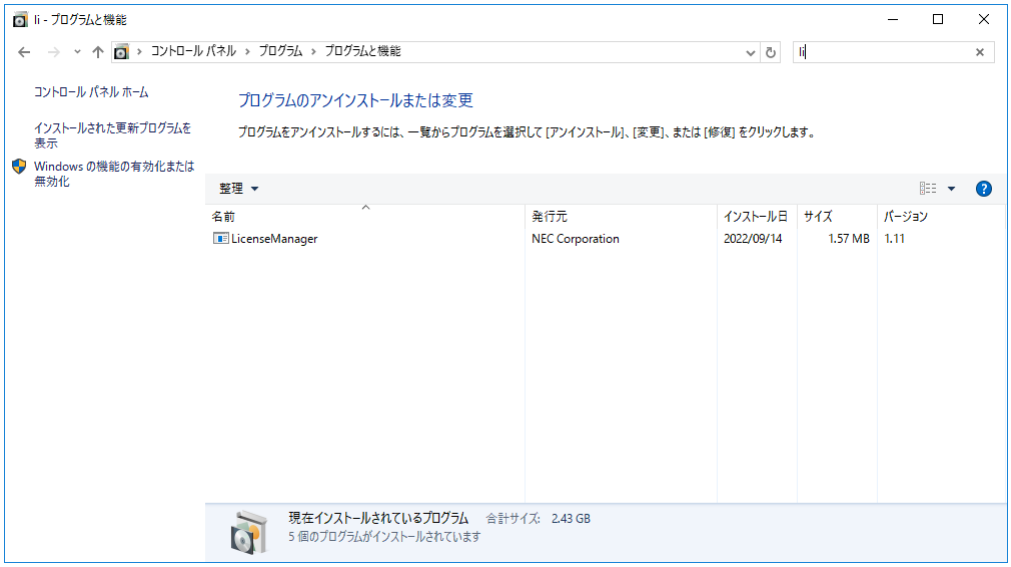

図4.5 画面例

4.3. サイレントインストール

4.3.1. LicenseManagerソフトウェアプロダクトのサイレントインストール

LicenseManagerは各プロダクトのインストールパッケージに同梱されています。次の手順に従ってインストールしてください。

> 古いバージョンのLicenseManagerがすでにインストールされている場合には、サイレントインストールを実施することで、LicenseManagerのバージョンアップが行われます。

1. LicenseManagerのインストールパッケージから、インストールファイル（setup.bat、setup.exe、lmsetup-x64.msi）をローカルディスク上の任意の同一フォルダ内にコピーし、コマンドプロンプトを起動します。コマンドプロンプトは［スタート］－［↓］で表示されるアプリ一覧から起動できます。

   このとき、右クリックメニューの「管理者として実行」を選択して、コマンドプロンプトを起動してください。

2. 次のコマンドでカレントディレクトリを変更してください。

```
C:\> cd C:\
```

> インストールファイル（setup.bat、setup.exe、lmsetup-x64.msi）を「C:\」にコピーしたと仮定して説明します。コピー先が異なる場合は適宜読み替えてください。

> 必ずパッケージファイル（setup.bat、setup.exe、lmsetup-x64.msi）をコピーしたフォルダにカレントディレクトリを変更してください。

3. 次のコマンドを実行するとインストールが開始されます。

```
setup.bat  [<INSTALL_PATH>]
```

> ■<INSTALL_PATH>にはインストール先のフォルダを指定します。また、<INSTALL_PATH>は省略することができます。省略した場合には「C:\Program　Files」がインストール先フォルダとなります。
>
> ■インストールの結果は、カレントディレクトリに作成されるログファイル(lm_install.log)に出力されます。

   インストールが正しく完了すると「Result: Succeeded.」と表示されます。

5. Linux版パッケージの削除手順

以下の手順に従ってパッケージの削除作業を行ってください。

5.1. 依存関係にあるプロダクトの確認

LicenseManagerと依存関係にあるプロダクトがある場合は先にそれをアンインストールしてください。

依存関係にあるパッケージを削除せずにLicenseManagerをアンインストールした場合、依存関係にあるプロダクトの動作に影響を与える恐れがあります。

5.2. 本パッケージの削除

Red Hat Enterprise Linux 8を例に記載しています。dnfコマンドについては、インストールするOSのパッケージ管理コマンドに読み替えてください。

1. ログイン名"root"でログインします。

```
login:root ↵
```

2. 次のコマンドを実行してください。

   実行後、依存関係に伴って削除されるパッケージ一覧が表示されますので問題なければyを選択してください。

```
root> /bin/dnf remove LM ↵
```

3. 次のメッセージが表示されれば、本パッケージは正常に削除できています。

```
Complete!
```

6. Windows版パッケージの削除手順

以下の手順に従ってパッケージの削除作業を行ってください。

6.1. 依存関係にあるプロダクトの確認

LicenseManagerと依存関係にあるパッケージがある場合は先にそれをアンインストールしてください。

依存関係にあるパッケージを削除せずにLicenseManagerをアンインストールした場合、依存関係にあるプロダクトの動作に影響を与える恐れがありますので事前確認をお願いします。

6.2. 本パッケージの削除

次の手順に従ってLicenseManagerパッケージの削除を行います。

1. マシンを立ち上げAdministrator権限のあるユーザでログインしてください。

2. Windowsの［スタート］－［コントロールパネル］で「プログラムの追加と削除」(または「プログラムと機能」)を実行し、次の画面を表示させます。［削除］(または［アンインストール］)ボタンをクリックします。

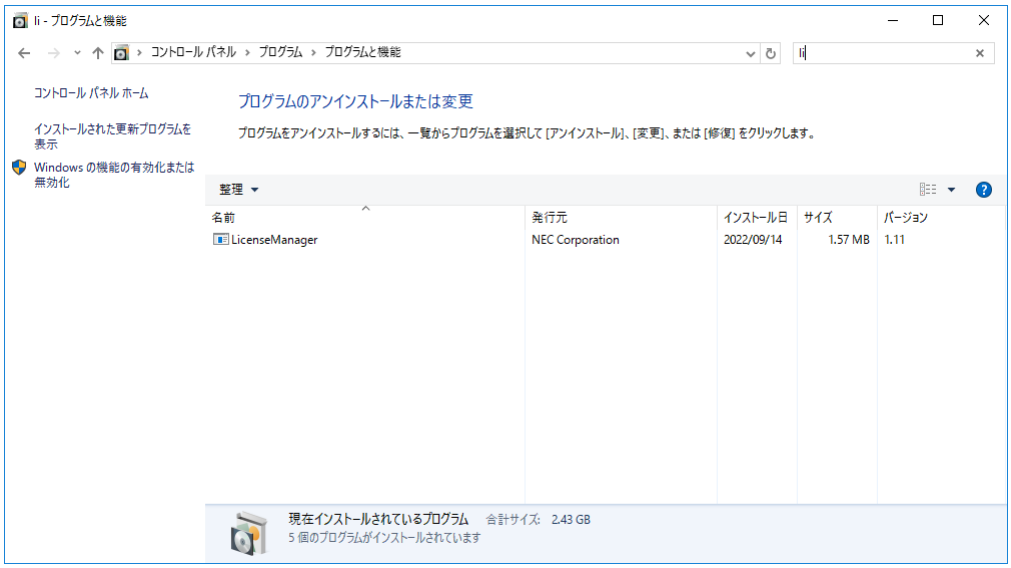

図6.1 パッケージ削除画面

3. 次の画面が表示されます。［はい］ボタンをクリックして、パッケージの削除を行います。

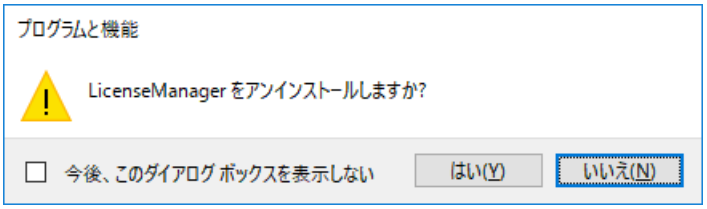

図6.2 パッケージ削除確認画面

4. 「プログラムの追加と削除」(または「プログラムと機能」)画面を再度表示し、「LicenseManager」のエントリーが存在しなければパッケージの削除は完了です。

発行年月 Nov 2025
NEC Corporation / SAY Technologies, Inc. 2025